

ボランティア自主企画事業

WA!んぱくキッズの森もりキャンプ冬

1 ねらい

- ・自然の中での非日常的な遊びや生活を通して、仲間と活動する楽しさを味わう。
- ・法人ボランティアが事業の企画・運営を通して、スキルアップを目指す。

2 期日

令和7年2月15日(土)～16日(日) 【1泊2日】

3 対象

小学校1・2年生

4 募集人数 / 応募人数 / 参加人数

30名程度 / 45名 / 27名
(3名参加決定後にキャンセル)



5 講師・スタッフ

- ・法人ボランティア 16名
- ・国立立山青少年自然の家 職員 2名

6 後援

富山県教育委員会、新潟県教育委員会、北日本新聞社

7 日程

	午前	午後	夜
2月15日 (土)	○はじめのつどい ○班タイム ○昼食(食堂)	○雪遊び (しり滑り・雪像づくり) ○夕食(夕食)	○焚火&星空観察 ○就寝(本館)
2月16日 (日)	○朝食づくり ○雪遊び(チューブそり滑り) ○昼食(食堂)	○振り返り ○おわりのつどい	

8 保護者からの事後アンケート

- ・思い出し笑いをしながら、いっぱいキャンプでの出来事を話してくれました。子供にとって明るく楽しく満足感の高いイベントでした。初めての場所、友達、ボランティアの方々に緊張しつつも、色々な交流ができて素晴らしい体験になりました。
- ・普段接する事のない大学生のお兄さんお姉さん、初めて会う友達と2日間過ごし、優しくしてもらったことや、困ったことなど、どの経験も本人にとっては良い思い出となりました。帰宅後にはたくさんのお話をしてくれ、少し遅くなったように思います。
- ・行く前は少し不安そうでしたが、帰ってきた顔はとても満足そうでイキイキとして楽しかったことが伝わってきました。初めてのお泊まりができて、自信がついたと思います。
- ・雪遊びを満喫し充実の二日間でした。SNSからも楽しそうな様子が伝わってきました。解散時に、ボランティアの方が、キャンプ中の子供の言動や様子をエピソード交えて伝えてくださったのがよかったです。

9 成果

- ・計画段階のはじめから、職員とボランティアリーダーとでねらいについてじっくりと協議を重ねた。参加する子供たちのために、充実した体験活動となることを常に意識し、準備から本番まで取り組んだ。事業当日の活動プログラム等の変更にも柔軟に対応することができた。
- ・各プログラムのつながりを意識して活動を仕組んだり、子供同士の声かけや、関わり方を見直したりしていくことで、グループリーダーが互いにコミュニケーションを取りながら活動を進めることができた。

10 今後の課題

- ・雪上プログラムの下見には時間がかかり、予定が詰まっていた。ボランティアが独自で会議の場を10回以上設けたり、下見などの時間を活用したりして、ボランティア同士の意見交換の機会を設定していた。先輩ボランティアからの学びの機会や大学生、高校生の意見交流の機会を確保し、思いをつないでいく必要がある。
- ・バス代に伴う予算の逼迫が課題である。冬に所バスを動かせるようにしたり、夏の「子どもゆめ基金」と冬の「自主企画事業」を入れ替えたりするなどの工夫が必要である。

